

学年末テスト最終日！

2月28日（水）

今日も朝は寒かったです。しかし一歩ずつ春に近づいています。校庭の桜の蕾もだいぶ大きくなりました。学年末テストも今日が最終日です。3学年と一緒に生活するのもあと12日です。テストが終わると生徒たちもホッとした顔になります。しかし、多くの3年生は2週間後に公立高校の学力検査を控えています。最後の最後まで気を緩めず授業に家庭学習に励みましょう。1・



2年生も卒業後の進路を考える時はすぐにやってきます。江戸幕末の長州藩に、皆さんもよく知っている吉田松陰という人物がいました。吉田松陰は「志定まれば、気盛んなり」という言葉を残しました。志とは、自分の心に決めた目標に向けて進もうとする決心のことです。したがってこの言葉の意味は、「目標への気持ち志としてはっきりすれば、自ずとやる気や意欲が生ずる」ということです。人は「頑張れ！」と言われても、目標が定まっていなければ頑張りようがありません。将来どんな職業に就きたいのか、高校で何を学びたいのかなどを明確にするためにも、多くの人と対話し、多くの知識を身に付け、自分の視野を広げていきましょう。学校での教科学習は勿論大切ですが、他にも子どもたちに身に付けさせたい力はたくさんあります。今の時代は、変化するスピードが速く、誰もが未来を全く予測できない時代と言われています。こうした時代でも、子どもにはしっかりと自立して、たくましく育てて欲しいと思うのは、全ての保護者の願いではないでしょうか。ある著書であった自立した大人になるために必要な力として、①「言葉の読解力」②「自分で考える力」③「想い浮かべる力」の3つが挙げられていましたので紹介します。

○言葉の読解力：人が言っていることや文章を的確に理解してポイントをつかむ力と、自分の考えを的確にわかりやすく相手に伝えたり表現する力です。要するにコミュニケーション力です。このコミュニケーション力は、「保護者が子どもに身に付けさせたい力」の第1位にもなっています。

○自分で考える力：勉強でも日常生活でも自分なりに考え、判断する力やこれまで身につけた知識や技能を活用する力、物事を筋道立てて考える力です。特に、これからの先行き不透明な変化の激しい時代を生き抜くには、こうした能力は非常に大切になってくるのではないのでしょうか。

○想い浮かべる力：具体的な物や事象だけでなく、人の心など抽象的なこともイメージできる力です。細かな点だけでなく、全体も俯瞰（ふかん）して見ることができる感性も大切だと述べられています。（俯瞰とは：元々は鷹が高い所から見を下ろすという意味で、全体を上から見ること。）

公立高校学力検査（一般入試）の願書受付が昨日の正午に締め切られ、本日の朝刊各紙に志願者数が発表されました。3月1日（金）の正午まで志願変更が認められています。しかし、志願変更は全てのパターンが認められているわけではありません。期間内に1回に限り、志望校、志願課程及び志願学科を変更できます。志願変更という制度を利用し、定員を超えているA高校（学科）から定員に満たないB高校（学科）に願書を再提出した結果、定員に満たなかったB高校の定員がオーバーし、A高校が定員に満たないということが起きることもあります。長い時間をかけて悩み決定した自分の進路です。定員をオーバーした段階で「自分が落ちるのでは・・・」と考え、その結果、安易に志願変更することは得策とは言えません。「自分は絶対に合格する！」という強い意志で、ぶれない事が最も重要です。

令和6年度兵庫県立高等学校学力検査志願者数

高校名	学科・コース名	令和6年度定員	志願者数
柏原高校	普通	160	168
氷上西高校	普通	10	11
氷上高校	生産ビジネス	32	8
	食品ビジネス	20	21
	生活ビジネス	25	5
篠山鳳鳴高校	普通	120	75
篠山東雲高校	地域農業	36	11
篠山産業高校	農と食	20	12
	機械工学	20	17
	電気建設工学	20	15
	総合ビジネス	20	18

※近隣の高校のみ掲載しています。詳細は県教委 HP で確認してください。